

<令和6年度版>

# もうひとつの勉強法

## はじめに

「まず、テキストを読んで知識をインプットしましょう。」  
多くの人がこの言葉の通りに、まずテキストを読むところから  
行政書士試験の勉強を始めると思います。

でも、テキストは約800ページあります。  
辞書のように厚い本を読んで、理解するのは、簡単なことではありません。

1日10ページずつ読んだとしても、読み終わるのは3ヵ月後です。  
3ヵ月も経てば、最初に読んだ内容は忘れていきます。  
テキストを読んでも、なかなか成果が出ない理由がここにあります。

テキストは、最初から最後まで通して読むものではないと考えています。  
必要な部分だけを、その都度読む方が、効果的です。

たとえば、過去問を解くための予備知識を身につけるためや、  
勉強していて理解が不十分だと思った部分の知識を確認するために、  
必要な部分だけを読むのが、賢いテキストの使い方です。

テキストの内容を全部覚えれば、合格できます。  
でも、それはとても難しいし、そんなことをしなくても合格できます。

テキストをなるべく読まずに勉強するにはどうすればいいか。  
そのための勉強方法をまとめました。

## もうひとつの勉強法 目次

はじめに	p 2
目次	p 3
第1章 もうひとつの勉強法	
1-1 「もうひとつの勉強法」概要	p 4～5
1-2 準備する教材	p 6～8
【コラム】 六法・判例集は必要なのか。	p 9
第2章 過去問の勉強方法	
2-1 過去問の勉強方法について	p 10
2-2 ステップ1：法令5択の勉強	p 11～26
2-3 ステップ2：多肢選択式・記述式・基礎知識の勉強	p 27～34
2-4 ステップ3：短期記憶から長期記憶へ	p 35
【コラム】 年度別の過去問題集の勉強方法	p 36
第3章 記述式の勉強方法	
3-1 記述式の勉強方法について	p 37
3-2 ステップ1：グループごとの取り組み	p 38～47
3-3 ステップ2：全体を通した取り組み	p 48～49
3-4 ステップ3：記述式も長期記憶へ	p 50
第4章 予想模試の勉強方法	
4-1 予想模試の勉強方法について	p 51
4-2 ステップ1：本番と同じように60問を通して解く	p 52～56
4-3 ステップ2：過去問と同じように1問ずつ解く	p 57
4-4 ステップ3：もう1度、60問を通して解く	p 58
4-5 ステップ4：もう1度、1問ずつ解く	p 59
4-6 ステップ5：第2回、第3回の問題を同じように解く	p 60
【コラム】 公開模試は受けるべきか。	p 61
【コラム】 公開模試を受ける場合のポイント。	p 62
第5章 試験直前期の勉強方法	
5-1 これまで勉強してきた内容の最終チェック	p 63～64
おわりに	p 65

# 第1章 もうひとつの勉強法

## 1-1 「もうひとつの勉強法」概要

もうひとつの勉強法では、次の順に勉強をしていきます。

- ① 過去問
- ② 記述式の問題集
- ③ 予想模試

テキストは、なるべく読まないようにしています。

①～③の勉強をしていて、解答や解説を見てもわからない内容についてはテキストを「引いて」読みます。

つまり、テキストは辞書のように使います。

①～③を勉強する目的は、次の通りです。

- ① 過去問 ⇒ 行政書士試験の土台となる知識を身につける
- ② 記述式の問題集 ⇒ 記述式で30点以上を取る実力を身につける
- ③ 予想模試 ⇒ 時間配分の練習＋実力確認＋①②にない知識の習得

まず、過去問に取り組んで、行政書士試験の基礎知識をおさえます。

年によってばらつきはありますが、過去問をしっかり勉強することで、100点～150点を取る実力が身につきます。

次に、記述式の問題集を解いて、40字で解答を書く練習をします。

最初から記述式の解答をすらすら書ける人は少ないですが、記述式の勉強に取り組むことで、次第に解答を書けるようになります。

最後に、予想模試を解いて、時間配分の練習や、自分の実力を確認します。

また、過去問や記述式の問題集にない知識をおさえて、知識の穴を埋めます。

「もうひとつの勉強法」で勉強する流れは、次の通りです。

### 【もうひとつの勉強法 勉強の流れ】

過去問	記述式	予想模試
2-1 (メイン)		
2-2 (メイン)		
2-3 (メイン)		
2-4 (サブ1)	3-1 (メイン)	
〃	3-2	
〃	3-3	
〃 (サブ2)	3-4 (サブ1)	4-1 (メイン)
〃	〃	4-2
〃	〃	4-3
〃	〃	4-4
〃	〃	4-5
〃	〃	4-6
5-1	5-1	5-1

表の「2-1」から「5-1」までの数字は、p 3の目次にある数字のことです。  
たとえば、「2-2」は、p 11～26の内容に取り組む、という意味になります。

2-1～2-3では、過去問だけに取り組みます。

2-4に進んだら、過去問の2-4と、記述式の3-1以降を並行して進めます。

3-4に進んだら、過去問の2-4、記述式の3-4、予想模試の4-1以降を  
並行して進めます。

勉強の優先順位は「メイン⇒サブ1⇒サブ2」になります。

まずメインの勉強を行い、残りの時間でサブ1・サブ2の勉強を行います。

【4-6】までの勉強を、試験の1ヵ月前までに終わらせるのが目標です。

次に、準備する教材について説明します。

## 第1章 もうひとつの勉強法

### 1-2 準備する教材

もうひとつの勉強法で使用する教材は、次の通りです。

- ・ 過去問題集
- ・ テキスト
- ・ 記述式の問題集
- ・ 予想模試

教材は、すべて本屋で購入できます。

最初からすべての教材を揃える必要はありません。

勉強する時期によっては、最新版の教材がまだ発売されていないこともあるので、最初に揃えないほうがいいです。

その章の勉強が終わりそうになったら、次の章に必要な教材を準備すればOKです。

最初に必要な教材は「過去問題集」と「テキスト」の2つです。

その他の教材を買うタイミングについては、この後で改めて説明します。

次ページから、各教材についてももう少し詳しく説明します。

## <過去問題集>

過去問題集は、2種類あります。

ひとつは「科目別」の過去問題集。

行政法、民法など、科目別に問題が収録されています。

もうひとつは「年度別」の過去問題集。

令和5年度、令和4年度など、年度別に問題が収録されています。

最近の行政書士試験の傾向として、過去問から再出題される問題の割合が増えているので、過去問の重要性が再び大きくなっています。

(国家試験としては、それがあべき姿なので、とても良い傾向です)

もうひとつの勉強法では、「科目別」の過去問題集を使いますが、

お手元にある過去問が「年度別」の場合もあると思うので、36ページのコラムで、年度別の場合の過去問の勉強方法を解説しています。

科目別の過去問題集でおすすめは、

LECの「出る順行政書士 ウォーク問過去問題集」です。

10年分の過去問が、科目別に収録されているので、ひとつの科目に集中して取り組むことができます。

## ＜テキスト＞

テキストは「法令」だけでもOKです。

「基礎知識」のテキストを別に準備する必要はありません。

(令和6年度試験から、一般知識の呼び方が「基礎知識」に変わります)

法令と基礎知識が1冊になっているテキストもあるので、それでもOKです。

おすすめは、LECの「出る順行政書士 合格基本書」です。

法令と基礎知識の両方が収録されていて、六法もついているのでお得です。

テキストは、自分が読みやすいと思ったものを使うのが一番なので、本屋で直接中身を見て、より読みやすいものがあれば別のテキストでもOKです。

## ＜記述式の問題集＞

記述式の問題集は、オリジナル問題の分量が多いものを選びます。

(過去問の記述式は、過去問題集で勉強できるので)

おすすめは、早稲田経営出版の

「合格革命行政書士40字記述式・多肢選択式問題集」です。

オリジナル問題が60問収録されています。(十分な問題数です)

## ＜予想模試＞

予想模試は、解説が充実しているものを1冊用意します。

問題が取り外せるタイプだと、解答・解説を読むのが楽になります。

おすすめは、LECの「直前予想模試」です。

問題1問ずつ、1ページで解説しているので、解説が見やすいです。

問題が取り外せる点も良いです。

次の第2章では、過去問の勉強方法について解説します。



## 【コラム】 六法・判例集は必要なのか。

行政書士試験の勉強をする人なら、一度は(?) 考える六法と判例集。

もちろん、ないよりはあったほうがいいのは間違いありません。

ただし、なくてもいい時期があります。

それは「初めて行政書士試験の勉強をする人が、勉強を始めたばかりの頃」。

このときは、六法や判例集があると、勉強の効率を下げます。

初めて勉強する人にとっては、ひとつひとつの知識をじっくりおさえることより、

ざっくりでいいので、スピード重視で勉強することがおすすめです。

言い換えると、じっくり1ページ読んだり1問解くより、

すばやく3ページ読んだり3問解く方が、勉強の効率は上がります。

六法や判例集を使うと、どうしても勉強のスピードが遅くなるので、

勉強が思うように進まない可能性が大きくなります。

まずはざっくり、ラフに勉強して、後でじっくり、詳細に勉強する。

この順序がおすすめです。

なので、勉強がある程度進んできたら（知識がある程度身についたら）、

六法や判例集を使って、ひとつひとつの知識を正確なものにするのは

とても良いことです。

特に、判例は、テキストや問題集の解説だと結論部分しか書いていない

ことがあるので、具体的にどんな事件だったのかを確認するために

判例集を使うのは効果的です。

## 第2章 過去問の勉強方法

### 2-1 過去問の勉強方法について

行政書士試験の土台となる「基礎知識」を効率的に身につけるために、まずは過去問を徹底的に勉強します。

過去問の勉強方法は、3つのステップに分かれます。

ステップ1：法令5択の勉強

ステップ2：多肢選択式・記述式・基礎知識の勉強

ステップ3：短期記憶から長期記憶へ

過去問の勉強で使う教材は「過去問題集（科目別）」「テキスト」の2冊です。過去問題集は、600問（10年分）が収録されているものを例にします。

過去問題集の600問は、大きく3つに分けられます。

- (1) 法令5択（400問）
- (2) 多肢選択式・記述式（60問）
- (3) 基礎知識（140問）

ステップ1で（1）に、ステップ2で（2）と（3）に取り組みます。

問題によっては、法改正で問題として成立しなくなって、問題集に収録されていないので、600問より少ない場合もあります。

この600問について、ステップ1～ステップ3の順に進めていきます。

各ステップの詳しい内容について、次のページから解説します。

## <講座案内>

ステップアップファーストでは、次の講座を開講しています。

- ・行政書士通学講座（個別指導）
- ・行政書士通信講座（個別指導）

各講座の詳細は、ホームページをご確認ください。

「ステップアップファースト で検索」

また、行政書士通学講座については「個別受講相談」を実施しています。  
ご相談は無料で、随時開催しています。（予約制）

個別受講相談のご予約は、ホームページのお問い合わせフォーム、  
またはお電話（055-215-2059）で承っております。

### <合格者の声>（行政書士通学講座）

法律知識ゼロからのスタートで、半年間の勉強で一発合格できました。  
先生の講座のおかげです。（ T.G.さん ）

### <合格者の声>（行政書士通信講座）

「過去問や模試を2時間で解く」と言うことが大きな力となりました。  
本試験でも2時間で解くペースを持ち続けられたからこそ1時間の余裕が  
生まれ、落ち着いて再度解答確認が出来たことで得点を大きく伸ばすことが  
出来ました。  
半年間のご指導をどうも有難うございました。（ K.W.さん ）

## <教材案内>

ステップアップファーストでは、オリジナル教材を販売しています。  
各教材の詳細は、ホームページの「オンラインショップ」をご確認ください。

### <逐条解説>

- |                   |                    |
|-------------------|--------------------|
| No.1 行政手続法の逐条解説   | No.6 民法の逐条解説（債権総論） |
| No.2 行政不服審査法の逐条解説 | No.7 民法の逐条解説（債権各論） |
| No.3 行政事件訴訟法の逐条解説 | No.8 民法の逐条解説（親族）   |
| No.4 民法の逐条解説（総則）  | No.9 民法の逐条解説（相続）   |
| No.5 民法の逐条解説（物権）  | No.10 個人情報保護法の逐条解説 |

### <問題集>

- |                  |                   |
|------------------|-------------------|
| No.1 行政手続法の問題集   | No.6 民法の問題集（債権総論） |
| No.2 行政不服審査法の問題集 | No.7 民法の問題集（債権各論） |
| No.3 行政事件訴訟法の問題集 | No.8 民法の問題集（親族）   |
| No.4 民法の問題集（総則）  | No.9 民法の問題集（相続）   |
| No.5 民法の問題集（物権）  | No.10 個人情報保護法の問題集 |

### <勉強法>

- |                |                 |
|----------------|-----------------|
| No.1 もうひとつの勉強法 | No.2 基礎知識の足切り対策 |
|----------------|-----------------|

### <合格者の声>

先生のサイトの教材に出会えて、今年度の行政書士試験に合格することができました。ほんとうにありがとうございました。

行政法関連の逐条解説は、印刷してパイプダーに綴じて持ち歩いていました。行政書士の試験では条文の読み込みはとても重要ですが、難しい言い回しの条文は何度読んでも、理解ができなければ、何の意味もなく、むしろ時間の無駄に感じていました。

先生の逐条解説は、何よりも難しい言い回しの条文をととてもわかり易い例え話で説明されていて、お陰で、条文という堅い読み物が、エッセーでも読んでいるような感じで、何度も繰り返して読めました。

一般の書籍では手に入らない、貴重な逐条解説だと思います。（ S.Y.さん ）